



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2011年11月号

「主題」

- 国際会長 : 「とにかくやろうー成せばなる」
- アジア地域会長 : 「とにかくやろうー成せばなる」
- 西日本区理事 : 「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」
- 中部部長 : 「先ず一步 楽しもう、学ぼう、働こう、そしてつなげよう」
- プラザクラブ会長 : 「ワイズなワイズになろう」

【Public Relations Wellness=ワイズデーはワイズ広報デー、ワイズデーでの催しや事業を積極的に外部に広報しよう。できればワイズ以外の方も参加できるイベントを企画しよう。】

11月例会および今後の予定案内

【11月第1例会(プランパスと合同例会)】
日時：11月8日(火)・19:00-
場所：ケンポー・東区東桜町2-15-27 TEL. 931-0271

【11月第2例会】
日時：11月24日(木)・18:45-
場所：名古屋YMCA会議室

内容：次月例会打ち合わせ
出席義務者：役員(大島・榊田・後藤)
12月担当者(高田・万福寺)
1月担当者(万福寺・大島)

【今後の予定】

1. チャリティーラン
日時：11月5日(土)・現地集合9:30
場所：名城公園
◆各自弁当その他持参のこと
2. EMCシンポジウム
日時：11月12日(土)・13:00-16:30
場所：愛知県青年会館(052-221-6001)
◆懇親会
時間：17:00-
会場：仙石すし(052-451-8602)
会費：2500円/人
3. YMCAチャリティーゴルフ大会
日時：11月23日(水・祝)・現地集合：8:30
場所：中部国際ゴルフクラブ
会費：16,000円/人
4. クリスマス合同例会(名古屋・南山)
日時：12月10日(土)・18:00-
場所：アイリス愛知

10月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者				
		1	2	①	②	③
会長	大島 孝三郎	○	○	○	○	
	小澤 幸男	○		○		
書記	榊田 守隆	○	○			
会計	後藤 猛	○	○			
直前会長	島崎 正剛	○				
	鈴木 誉三	○	○			
副会長	高田 廣	○		○		
	常盤 眞理子		○			
連絡主事	万福寺 昭美	○	○			
ゲスト						
課外活動	①四日市クラブ特別例会 10/20					
	②ふるさと交流会 in Nissin 10/29					

出席率・%					100.0	
1. ニコボックス						
2. オークション						
当月合計/累計					5500	
12月号ブリテンの寄稿者は鈴木さんです。 400字詰原稿用紙4-5枚を目安にお願いします。 Eメール moritaka_kushida@ybb.ne.jp 1月号 島崎/2月号 高田/3月号 大島						

PR=広報

10月第1例会報告

日時：10月8日(土)・10:00-14:30

場所：稲永公園

1. 根の上祭り参加者確認・大島

参加者なし。

2. ふるさと交流会へ寄付金・大島

ふるさと交流会実行委員会は、各クラブ会員1人当たり500円の寄付金を要請する。プラザは4,500円を拠出する。

3. 四日市クラブ開催講演会参加者確認・大島

大島・小澤・高田さん3人参加。

4. パレットキッズとハゼ釣り会

パレットキッズとわがクラブのハゼつり交流会は、10月8日(土)午前10時半から稲永公園のビジターセンター横の堤防で行われた。

当日は引率の渡辺さんに中学1年から高校3年までの子ども9人とリーダー2人、わが方は8人が揃う。お互いにあいさつをして、後藤さんが餌の付け方から竿の持ち方、飛ばし方までレクチャーする。釣りを知るリーダーが居るらしく心強い。潮の満ち始めが「潮時」のはずだが、一向に釣れない。昨年は時期が遅く収穫なしのため、1ヶ月開催を早めて「またか」と不安になる。早々にあきらめて「弁当が食べたい」と要求する子どもがいる。

食事タイム。食べ終わってすぐ釣りに取り掛かる子もいる。昼から堤防を行き交う釣り人が多くなった。堤防の真下に20cmほどのセイゴ(スズキの幼魚)が群れをなして泳いでいる。仕掛けをそっと降ろしても、餌のゴカイを大勢でつくだけでくわえない。「見える魚は釣れない」と言うが、正にその通りで当の子どもは、魚に遊ばれているようだ。

「釣りは楽しいね」という子に「釣れなくても?」と聞く。「うん、うまく投げられるようになったから」と嬉しいことを言ってくれる。沢山釣らせてあげたいが、きょうの釣果は全員で13匹、から揚げにするのも少々寂しい。来年に期待しましょう。

10月第2例会報告

日時：10月27日(木)・18:45-20:15

場所：名古屋YMCA会議室

1. ふるさと交流会 in Nissin・大島

10月29日(土)、愛知牧場で招待者60人、ボランティア70人の予定で開催される。プラザからは大島会長が参加する。

2. 南山ピースフルサンデー・大島

10月30日(日)10時から南山YMCA主催・グランパスクラブ支援によるバザーを行います。



(YMCA 大感謝祭、リーダーたちの活動報告を聞く)



(釣れないがまず食事、昼からがんばろうとしましたが)



(平均年齢70.3歳のゴルフ4人組、いざ・・・体力が心配)

3. 三重県民の森チャリティーウォーク・大島

三重YMCA、四日市・津クラブ共催のチャリティーウォークが11月3日(木・祝)三重県民の森で10時から行われ、大島会長が参加の予定。

4. チャリティーラン・(島崎伝言)

プラザクラブの役割 ①スタート直後の階段の掃除 ②のぼり、距離表示看板の設置および撤去。

5. 国際特別プログラム&街頭募金・万福寺

応募者少なく開催未定。

6. 11月第1例会(グランパスと合同例会)・大島

ケンボー・グランパス(服部会長)との細かい打ち合わせは11月担当の鈴木さんに一任する。

7. 名古屋クラブ 11 月第 1 例会・大島
(プラスワン例会・堀川千人調査隊の卓話)
大島会長出席。今後、他クラブの特別例会および講演会などの行事を月報で案内(掲載)する基準を検討していただきたい。・プリテン担当
8. EMC シンポジウム・大島(詳細略)
参加者・大島、島崎、鈴木、常盤さん。
9. 12 月合同例会・大島
(1)各自 1000 円程度のプレゼントを持参。
(2)会費 7000 円/人
10. YMCA 連絡事項・万福寺(略)

9 月 23 日(祝・金)午後 5 時半より南山ファミリー YMCA で、第 1 部、日和田のキャンプや韓国とのユースセミナー、東日本大震災のボランティア活動などの報告会、第 2 部、バーベキューを楽しみながらリーダーとワイズ会員たちのおしゃべりをする大感謝祭が行われ、出席した伊藤綾花リーダーが、感想文を寄稿してくれました。

YMCA 大感謝祭に参加して

感謝祭の最初に、今年の夏のプログラムについて、南山、名古屋それぞれが報告をしました。最初に子どもが何人参加したと思うか聞かれたとき、私は、500 人ぐらいだと思っていたので、950 人の子どもが参加してくれたと聞いて、とても驚きました。報告では、実際に子どもたちの写真が流れながらどんなプログラムをしたかを話したので、リーダーのみんなで「これは、〇〇のときの写真だね」などと和気あいあい喋ったり、子どもたちが笑顔で写っている写真ばかりだったので本当に楽しんで参加してくれていたとわかったりして、とてもうれしかったです。また、子どもたちだけでなく、リーダーやスタッフさん、プログラムを手伝ってくれた人すべての人のスライドも笑顔だったので、今回のプログラムはどれも楽しくて、よかったものであったのだと思いました。

次に、復興支援キャンプと全リーダーの報告がありました。2 人とも、どんなことをしたか、感じたことなどわかりやすく報告してくれたので、どんな感じだったのかが想像できました。16 日間仙台にいったリーダーの報告では、仙台の今の状況や子どもたちの様子がよくわかって、今後どのような支援が必要なのかなどが考えられました。

報告が終わってから、バーベキューをしました。最初の火つけからリーダーがやりましたが、どこの班もちゃんと火がつけられていたり、みんなが人任せにするのではなく、それぞれが自然と役割を見つけて、行動したりしてさすがだなと思いました。お肉やお野菜を焼きながら、名古屋ワイズメンズクラブの方や

リーダー同士で、それぞれのプログラムの話やワイズメンズクラブの話などをして楽しく過ごしました。

最後の方には、トーチをみました。トーチは、どの技も凄くて、同じ大学生には見えませんでした。今回の感謝祭で、普段喋らないリーダーやワイズメンズクラブの人と話せたことで、貴重な話や参加していないキャンプのことが知れて凄くためになったし、なんとなくこんなリーダーになりたいという希望がみえてよかったです。

(伊藤 綾花リーダー・愛称「きゅう」)

ゴルフ散々歩

この夏、高田さんからゴルフを誘われた。退職して 12 年経つ、ゴルフには入社同期の仲間と年 1 回行く程度でゴルフクラブも子どもに譲ってしまった。「暑いから」とお断りしたが、「涼しくなりましたねえ」と言われれば「そうですね、いつにしましょう」と、メンバーを募ることになる。

10 月 12 日、大島さん宅から鈴鹿カントリークラブまで約 1 時間 15 分、フロントで高田・島崎さんが手ぐすね引いて待っていた。大島さんは腰を痛めて 7 年半プレーしていないし、島崎さんからゴルフの話は聞いたことがない、現役は高田さんだけである。

スタートは西の IN、355 ヤードのミドル、島崎さんの第 1 打は右に行ったが、あとの 3 人はまずまず。意外なのは大島さんで、7 年半のブランクが感じられないほどドライバーの球筋がいい。このホールはダボ 2 人のトリプル 2 人、みんなこんな調子が続き、上がってみればスコアは順に、49・52・53・66 である。

午後も同じようなスコアが並び、ダブルペリアのハンディキャップは 24・24・28・36 と算出された。高田さんのアプローチは抜群、大島さんは「ゴルフは自転車と同じ」らしい、島崎さんは仕事が忙しく練習不足。

4 人のゴルフは初お手合わせ、わいわいと無駄話をしながらお互いがマイペースのプレーは、現役時代のせせこましいゴルフを思えば、おおらかで楽しい。冬が過ぎ、春になると陽気もよくなる。さあ、まだ歩けばまた一緒にグリーンをぶらぶら散歩しながら散々叩きましょう。

四日市クラブの特別例会報告

去る 10 月 20 日、四日市ワイズメンズクラブ特別例会チャリティ講演&演奏会に出席して来ました。近鉄名古屋駅で大島会長と待ち合わせをして名古屋発 17 時 7 分発の急行列車に乗り約 40 分間で四日市駅に到着する。会場のムーシケホールに 18 時過ぎに入り受付を済ませます。

四日市クラブの郷戸会長を始め馴染みの面々が握手して歓迎してくれた。会場に入ると間もなく小沢さんも合流して、プラザから3人が出席する。19時開演。竹中ワイズマンの司会で先ず郷戸会長の歓迎の挨拶を受ける。そして演奏が始まる。バイオリン奏者の奥村優(ゆたか)さんとチェロの小林薫さんのアンサンブルでG線上のアリア(J.S.バッハ)他とユーモレスク(ドヴォルザーク)の演奏が終わる。会場は拍手の嵐だ。ちなみに2人の奏者は四日市出身の将来有望な美人だ。

そして鈴鹿短期大学学長の佐治晴夫先生の宇宙と人間と題して講演が始まる。まず東日本大震災について過去にもある災害を防災に生かせず大災害となる。よく言う災害は忘れた頃にやって来る。夏目漱石の弟子で金子みすずさんが書いている様に地球学を勉強する人が少ない。天災は人間がコントロール出来ない。先生の「宇宙と人間と音楽と」の講演に入る。1977年アメリカ航空宇宙局(NASA)が打ち上げたボイジャーに地球からのメッセージとしてバッハの音楽などを搭載することを提案。現在は宇宙研究の成果を平和教育への人の素材として位置付けている。また、月を調査に行く理由は古い地球の姿を見ることで地球の歴史を知る事が出来る。人類は四足歩行から進化して二足歩行に至る過程。又脳の発達による進化。しかし人類は自らの技術で滅びることもあるとも説かれた。人間は不可思議な動物とも話された。宇宙の壮大な話など1時間40分の講演だった。最後にバッハアベマリアを先生のピアノと2人の奏者の演奏で終わる。

その後場所を移し、四日市文化会館にて懇親会が21時から始まる。席に着き親しく歓談し、私は一足先に会場を後にした。

(高田 廣)

S F映画「猿の惑星」

10月の第2例会へ出る前に映画「猿の惑星 創世記」を名駅前の映画館で見た。1作目の前段物語かと期待したが凡作だった。あらずじは、製薬会社が認知症の新薬開発中、試験投与されたチンパンジーの脳細胞が活性化、その子どもシーザーが人間並みの知能を持ち、街中の猿たちを扇動して理不尽な人間たちに立ち向かう、という何のオチもない物語である。

光速を越える宇宙船が地球だと思っていた惑星に帰ると、そこは猿が支配する世界であった。猿族は学者のチンパンジー、支配者のオランウータン、軍隊のゴリラなどの階級に分かれ、人間たちは檻に入れられた家畜だった。捕らえられた主人公チャールストン・ヘストンは、チンパンジーに助けられ、彼らがいう「禁断の地」へ逃げて見たものは、朽ち果てた自由の女神像、地球に間違いのないことを知り彼は絶望する。人間を登場させ

ながら言葉がない、地球ではないと思わせて地球だった1作目のラストシーンは衝撃的だ。

原作はフランス人の小説家ピエール・ブールで、第2次世界大戦中日本軍の捕虜となり、奴隷並みの仕打ちを受け、その体験を基に書いた。もとの筋は、人類初の恒星間飛行を成功させて降りた惑星は、人間を凌ぐ文明を担った猿族が住み、人間族は知能も文化もない下等種族として扱われていた。ほかに「クワイ河の橋」、早川雪州が捕虜収容所の所長役で出た映画「戦場にかける橋」も書いている。

「やっぱり地球だった」の映画と違うのは、20世紀フォックスが当時破産寸前の状態で原作にある未来都市のセットを作る予算がないため、「核戦争で破壊された文化が退行した地球」に書き換えた。脚本は「陽のあたる場所」「友情ある説得」のマイケル・ウイilson、マッカーシズムでハリウッドを追われ復帰2作目だった。原作はもし戦争で日本軍が勝利したら? の想定で書いていたが、監督は「政治的な映画だ」と述べ、1964年黒人への公民権、翌年の投票権法成立を意識した人種差別問題を提起している。あれから43年、合衆国大統領はアフリカ系アメリカ人バラク・オバマである。

聖書の言葉

【軽率に話すものを見たか。彼よりは愚か者にまだ望みがある。(箴言 29:20)】

【9月10日のわが「気紛れ日記」は呆れている。9月9日、鉢呂経産相が福島第1原子力発電所とその周辺を視察し記者会見で「残念ながら周辺の町村の市街地は人っ子一人いない、まさに死の町という形だった」の「死の町発言」にメディアが噛み付き、野党の連中も「閣僚として失格」、「任命した首相の責任を問わざるを得ない」と便乗する始末。メディアもメディアだ、同じ町を見て記事にし、テレビで写して「死の町」や「ゴーストタウン」と表現しなかったか? こんなことをいちいちあげつらって記事にするなんて、馬鹿馬鹿しいのを通り越して、ジャーナリストのセンスを疑う。

9月13日付中日新聞のコラム「中日春秋」は手厳しい。『鉢呂経産相が原発視察後、人影のない周辺の状態を「死の町」と呼んだほか、・・・』と書き、最後に『近年の閣僚には、ろくに仕事をしないまま失言で退場というケースが多すぎる。向後の戒めに』と、上記の聖句で結ぶ。1週間後の中日新聞社説は、5月前厚生労働相が参院行政監視委員会で「死の町」発言をしたが、メディアは問題にしなかったこと、中日新聞を含めた各紙が、放射線で汚染された町を「ゴーストタウン」と表現していた、と告白『言葉で仕事をしているメディアや政治家が、言葉に不自由になってしまうようでは自殺行為ではないか』と言い訳をしている。】